

健康への

メッセージ

シリーズ 102

肝細胞癌について

光町のみなさんこんにちは。今回は肝臓の癌について述べます。肝臓の悪性腫瘍の95%は肝細胞癌であり、ウイルス感染のため慢性肝障害を持つ人に発生します。少数例では肝組織の中の胆管から生じる胆管細胞癌があります。黄疸や腹水などにて発見され、進行していることが多く治療が困難です。稀には健診や他の原因で検査を受けて肝臓内の異常な影として発見され外科切除が可能な場合もあります。

さて、肝細胞癌は年間死亡者数3万人を超え、癌死亡率では肺癌・胃癌に次ぐ第3位を占めています。肝細胞癌は90%以上がB型やC型の慢性肝疾患から発生するという他の癌に比べて特徴があります。危険因子が明らかなので早期の発見が可能です。シリーズで連載していた慢性肝炎や肝硬変の患者さんの中から発生します。時期は何時とは決められずに発生しますが、感染から25〜30年の長い経過の後に発生する例がほとんどです。しかし、早期に発見されれば局所療法という治療により完治が可能なおも多く恐れることはありません。

お薦めです。腹部エコーが有用と述べましたが、肥満した人や腹部の手術を受けた人ではエコー検査で肝臓内が見にくい場合があり、また癌の種類や発生部位によっては超音波検査でも盲点となる場所があります。年に1度は腹部のCT検査やMRI検査の実施がベストです。

早期に発見された2〜3cm以下の肝細胞癌では可能なら外科的切除が検討されますが、肝機能が重篤な場合が多く手術は危険を伴います。その場合には局所療法といって局所麻酔下に無水エタノールを局所に注入して癌組織を破壊する治療法やマイクロ波やラジオ波による局所加熱凝固療法が有効です。治療が終わっても再発する例もあるので慎重な経過観察を要し、再発したらまた同じように治療を行います。

残念ながら進行した状態で診断された場合でも以前に比べて治療法が進歩しています。肝細胞癌を栄養する血管（肝動脈）を塞栓物質により閉塞して癌細胞を兵糧責めにするTAE法、肝動脈より直接抗癌剤注入するTAI法があり、稲毛の放射線医学研究所では重粒子線を体外照射する治療法を行っています。

肝硬変から肝臓の発生を予防する方法としてインターフェロンの投与方法の改良や新薬の開発など、肝臓の発生機序や治療法に関しては研究が進められており、検査法の進歩による早期発見と相まって肝臓の子後は年々改善していくものと思われまます。

※東陽病院の休日当番日

5月3日(祝)・12日(日) 午前9時〜午後5時
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎0413335



東陽病院 副院長 伊藤 文憲

肝臓内の検査の一番は腹部エコー検査です。この検査を定期的に行うことが最も大切です。肝機能に異常の無い健康保菌者（キャリア）は6〜12ヶ月に一回、慢性肝炎の時期には3〜6ヶ月に一回、肝硬変では3〜4ヶ月に一回が

第1回 IT講習会

パソコンの初心者を対象とした、第1回IT講習会を開催します。なお、今年度は4回行います。

日程 5月29日・6月5日・12日・19日・26日の毎週水曜日
午後1時30分〜4時30分

会場 図書館2階学習室

対象者 ①20歳以上の町内在住・在勤者で、5日間受講できる方。②昨年度に受講していない方を優先します。

定員 20名

申込み 5月15日から図書館カウンターで受付します。定員になり次第締め切ります。

その他 受講料は無料。テキスト代は実費。

子どもと本の講座

親子で楽しむわらべうた

ほんの



昔から歌いつがれてきたわらべうたを親子で一緒に歌ったり、体を動かして遊びながら、楽しいひとときを過ごしませんか。

＝町立図書館＝
☎043311

日時 第1回 6月6日(木)

第2回 6月7日(金)

いずれも午前10時〜11時30分

場所 ハイビジョンホール

内容 わらべうた・絵本の読み聞かせ・歌「かたつむり」・折り紙であじさい作り

定員 各30名

申込み カウンターまたは電話で受付します。

